

# ガツオ沢

上

一九八二年九月十五日

観音堂沢ぞいの林道を歩いて観音堂(廃村)に向かう。途中台風のため壊れた林道の復旧工事をしていた人たちから、ここらあたりの沢の様子を聞く。

観音堂より田圃のなかの道を通り、沢に降りる。身支度をして出発。沢の左岸ぞいには踏跡があった。

小さなナメ二つを過ぎ、二俣に着く。右俣(ガツオ沢)にルートをとる。出だしのF1八は、左岸を直登。続いて傾斜のあるナメ沢が左に曲がる。ここにF2一〇が。こちらは右岸を直登する。

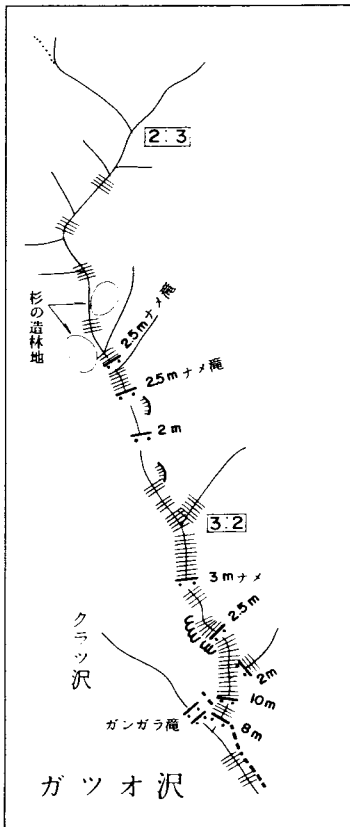
沢はナメが続く。左より小沢が二

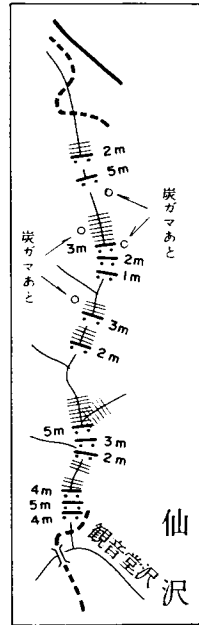
つこの滝となつて合流し、続いて小滝がある。このあたり右岸に岩場が見える。

F3三はナメは何なくパス。なおもナメが続いて、二俣となるが、本流の左俣へルートをとる。

所々ナメが土砂で埋まっている中を登りつづける。小滝と傾斜のあるナメが交互にでてきた。そして右岸に宮林署の標識が出てくる。それに続いてまず右岸に、続いて左岸に杉の造林地が出てきた。このあたりまでくると、もう沢は細い流れでしかなく、所々ヤブこぎのような所も出てくる。

一一時過ぎに、最後の二俣に到着。クラツ沢を下降するために、ここで





は左俣にルートをとる。ヤブこぎ気味に遡ると、沢の水もチヨロチヨロとなる。

尾根が見えてきたところに炭焼き

釜あとがあり、ここから尾根に上がる。尾根上で昼食をとり、木に登って現在

地の確認をしたあと、クラツ沢への下降を開始する。(記： )

「タイム」 出合(九：〇五) ↓ 終了(一

一：三五)

本流に出る直前にかかる三つの滝の最下段のものだけは下ることができず、左岸を捲く。全体としては平凡な沢であった。( )

「タイム」 下降開始(一五：三〇) ↓ 下降終了(一六：二五)

## 仙 沢

一九八三年五月二日

一五時三〇分、仙沢の下降を開始する。すぐに小滝が出てきた。斜瀑であり、フリクシヨンがよくきくうえ、沢幅が狭いため岸の樹木の枝を利用できるので、クライミングダウンの必要もなく下る。

両岸には次々と炭焼き釜跡が出てくる。この沢ぞいは炭焼きの盛んな所だったのだろう。

シドキやウルイといった山菜を摘みながらゆっくりと下ってゆき、一六時二五分、観音堂沢本流へと出た。



座頭沢の廻行